

大豆情報 第1号

令和7年6月20日
JAむなかた
北筑前普及指導センター

7月20日までに播種を終わらせましょう！！

今後の天気予報を確認し、排水不良のほ場は播種の前に周囲溝を設置し、あらかじめ排水口とつなげるなど排水対策を徹底しましょう。



ちくしB5号は、販売上の名称として、「ふくよかまる」と名付けられました！

福岡管区気象台の6月12日発表の1か月予報は下の表のとおりです。

| (1 週目) 6/14~20頃 | (2 週目) 6/21~6/27頃 | (3~4 週目) 6/28~7/11 |
|----------------------|--------------------------------------|-----------------------|
| 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 | 太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。 | 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 |

☆近年、**梅雨明け後の乾燥害**による出芽や生育の不良がみられます。

乾燥害軽減のため、**出芽後に暗渠栓を閉め、土壌の乾燥を防ぐ**ことも有効です。

大豆栽培では、「適期に播種」することが重要です！「ちくしB5号」は6月下旬からの早播きも可能です。早めに作業計画を立てて、機械の点検、種子消毒などの準備をし、効率的な播種作業に努めましょう。

速やかに播種するためには、**部分浅耕一工程播種**や、**播種直前に耕起**を行うようにしましょう。また、播種直後の冠水による出芽不良を避けるため、排水の良いほ場から順に播種するようにし、**大雨が予想される場合は、降雨の1日前には播種を中断**してください。冠水したほ場は、早い排水を心がけましょう。

1. 土づくりと施肥

土づくりと施肥体系の見直しによって、高品質・高収量の大豆づくりをめざしましょう。

【問題】JAむなかた管内の土壌は、有効態リン酸、カリウム及び腐植（有機物）が少ない傾向。

| 対策 | |
|-------------|--|
| 有機物の施用 | 堆肥の施用・わらのすき込みなどにより、土壌の物理性の改善、地力の向上、根粒の活性化を図る。 |
| リン酸、カリウムの供給 | PKC30号（30kg/10a）、塩化カリ（15kg/10a）、粒状ようりん（20kg/10a）を施用する。 【効果】リン酸：結実の向上、初期成育や根粒の着生の促進 カリウム：粒肥大の向上 ※カリウムは吸収量の60%が子実に移行するため欠乏しやすい。 |
| 生育量確保 | 地力の低下しているほ場、遅まきのほ場では、高度化成550（30~40kg/10a）を施用し、生育量確保を図る。 |

2. 播種（生育量確保のため、播種時期が遅くなるほど密播する。）

| 播種時期 | 条間 | 株間 | 10a 当り播種量 | 播種深度 |
|-----------------------|---------|---------|-----------|--|
| 6月下旬～7月10日 | 70cm | 25～20cm | 3～4kg | ● 基準 3cm 土壌水分が多い→浅く 土壌水分が少ない →やや深く（5～6cm） +鎮圧 |
| 7月11日～20日 | 70cm | 20～15cm | 4～6kg | |
| （遅播きの場合） 7月21日～31日 | 70～50cm | 15cm | 6～8kg | |

3. 種子消毒

| 病害虫名 | 薬剤名 | 使用方法 | 使用量 種子 10 kg |
|---------------------------------------|--|------------------------|--------------|
| 紫斑病 | キヒゲン | 乾燥種子重量の1%粉衣 | 100g |
| ハト タネバエ | キヒゲンR-2 フロアブル | 乾燥種子1kgあたり 原液20mL塗沫 | 200mL |
| 紫斑病、ハト、タネバエ、 I、苗立枯病、ネリ ムシ類、白絹病他 | クルーザーMAXX ※ 湿潤条件での 苗立ち安定 | 乾燥種子1kgあたり 原液8mL塗沫 | 80mL |

※クルーザーMAXXは、播種時の土壌水分が極端に少ないと発芽率が低下する場合がありますため、土ぼこりが発生する様な極端な乾燥時の使用は避けてください。

4. 雑草防除（ホソアオゲイトウ・ホオズキ、アサガオ類多発ほ場除草体系）

| 時期 | 7月 | | | 8月 | | |
|------------------|---|---|-----|-------|--|-----------------------------|
| | 上中 | 下 | 上 | 中 | | |
| 大豆生育 | 播種 | 1葉期 | 2葉期 | 3～5葉期 | 4～5葉期 | 6～8葉期 |
| 防除 | 播種後土壌処理剤 | 莖葉処理除草剤 | | 中耕培土 | 莖葉処理除草剤 | 畦間処理除草剤 |
| ホソアオゲイトウ ホオズキ | ラクサー乳剤 +フルミオWDG 播種後出芽前 全面土壌散布 | パワーガイザー液剤 大豆出芽直前～3葉期まで （雑草発生始期～2葉期） 雑草莖葉散布又は 全面土壌散布 使用量 200～300mL/10a 希釈水量 100L/10a | | | 大豆バサグラン液剤 大豆2葉期～開花前まで （雑草発生初期～6葉期） 雑草莖葉散布又は全面散布 | バスタ液剤 収穫28日前まで （畦間処理） |
| アサガオ類 | サターンバアロ 乳剤 +フルミオWDG 播種後出芽前 全面土壌散布 | | | | | |

◎使用薬量、使用時期等は、こよみを参考にしてください。

◎他のほ場に隣接している場合は、農薬の飛散に注意して下さい。

◎播種後土壌処理剤は、可能な限り播種当日に散布をし、遅くならないように注意して下さい。

※令和7年度より、アタックショット乳剤は製造中止（既存の在庫は使用可能）のため、
莖葉処理除草剤としてパワーガイザー液剤を採用しています。

5. ネキリムシ類の防除

夜に幼虫が地表に現れ、大豆幼根を地表付近で切断します。

【対策】：ネキリエースKを播種時～本葉2葉期に10a当たり3kg 土壌表面株元処理します。

※誘引殺虫剤であるため、被害が発生してから散布して下さい。

施肥、生育期除草剤等については、大豆こよみを参照下さい。

※農薬登録状況：令和7年6月10日時点